

令和6年 恵那市の主要ニュース

1. 住みたい田舎ランキングで1位を獲得（1月）

株式会社宝島社が発行する「田舎暮らしの本」2月号の「住みたい田舎」ベストランキング調査で、本市が全国「3万～5万人未満の市」総合部門で第1位を獲得した。



2. ポーランドとの交流は美術館同士の協定締結へ（2・3月）

東京2020大会のホストタウン事業をきっかけとして、2月に岐阜県ポーランド交流協会が設立され、3月には日本美術技術博物館マンガ（クラクフ市）と中山道広重美術館が友好協力協定を締結した。



3. 初の台北国際食品見本市（Food Taipei）出展（6月）

市内事業者の海外販路拡大の機会とするため、初めて台北国際食品見本市への出展を支援した。3事業者が出展し、会場に設置された恵那市ブースで栗の和菓子や日本酒、発酵食品などをPRした。



4. パラリンピックで本市出身の選手が入賞（8月）

武並町出身の工藤俊介選手（株式会社ダイテックス所属）がパラテコンドー競技に出場し、5位入賞を果たした。工藤選手の入賞は、東京大会の7位に続き2大会連続となった。



5. 恵那峡スマートインターの事業化が決定（9月）

9月6日、国土交通省からスマートインターチェンジの新規事業化箇所が発表され、恵那峡S Aスマートインターチェンジ（仮称）の新規事業化が決定された。



6. 市制20周年（10月）

市制20周年を記念して市内4カ所に地域公園を整備した。また、20年の歴史をまとめた恵那市史を発行した。記念式典は恵那文化センターで開催し、203の個人と団体を表彰した。



7. WRCでにぎわう市内を自動運転車両が走行（11月）

世界ラリー選手権では、リニューアルした笠置山モーターパークが初めてSSに、恵那駅前が初めてリエゾンになり、各観戦エリアとリエゾンは多くの観客でにぎわった。恵那駅前では、株式会社マクニカとの連携により、自動運転EVバスの体験試乗会も行った。



8. 大井ダム完成100周年（12月）

大井ダムの完成100周年を記念し、実行委員会で1年間かけて事業を実施した。12月には大井ダム完成100周年記念WEEKとして、記念式典やナイトショーなどさまざまなイベントを開催した。



9. 子育て支援パッケージで子育て支援を充実

3歳以上児給食費無償化や、見守り支援員によるベビー用品配達などの新たな事業を含め、「子育て支援パッケージ」として子育て支援事業をまとめ、充実を図った。



10. 恵那南中学校の開校が決まる

7月の市議会臨時議会で学校設置条例の一部改正が、9月市議会定例会では増改築工事予算が議決された。12月市議会定例会での工事請負契約の議決を経て、令和8年4月開校に向けた準備が進んだ。



その他

- ・小学校の体育館に、ガスヒートポンプ式のエアコンを設置。引き続き中学校にも設置
- ・五毛座改修工事の完成、清流の国ぎふ文化祭2024、飛騨美濃歌舞伎大会など、多くの文化イベントを開催した
- ・ごみ処理の広域化に向け、広域ごみ処理施設整備建設候補地検討委員会を設立した
- ・朴葉寿司まつり、五平フェス、栗フェス、発酵フェスなどの開催に加え、ふうど認証制度、えなブランド認定事業などが始まり、食の取り組みがさらに進んだ
- ・市議会議員選挙、市長選挙が執行され、新たな顔ぶれとなった